

本日のセミナーの概要

増井利彦(国立環境研究所)

低炭素社会は実現できるか？

DDPP(Deep Decarbonization Pathways Project)報告セミナー
及び環境省環境研究総合推進費2-1402報告会
東京工業大学 くらまえホール

2014年10月7日

本日の会合の内容・目的

1. DDPP (Deep Decarbonization Pathway Project)の報告
Emmanuel Guerin氏 (SDSN) / 大城賢氏 (みずほ情報総研)
2. 環境省 環境研究総合推進費2-1402「わが国を中心とした温室効果ガスの長期削減目標に対応する緩和策の評価に関する研究」の報告(「国民との科学・技術対話」の一環として)
芦名秀一氏 (国立環境研究所)
3. 日本における温室効果ガス排出削減に向けた議論の行方
山岸尚之氏 (WWFジャパン) / 倉持壮氏 (IGES)
4. パネルディスカッション
 - 地球環境戦略研究機関と国立環境研究所が共同で開発している『2050カリキュレーター』の紹介と実演。
 - 各報告者に対する質問への回答: 受付でお渡しした資料にある質問票に質問内容と誰に対する質問かをお書き下さい。休憩中に回収し、パネルディスカッションで登壇者から回答してもらいます。
 - 2°C目標や日本の排出削減目標など、COP21に向けて日本において必要となる論点を議論。

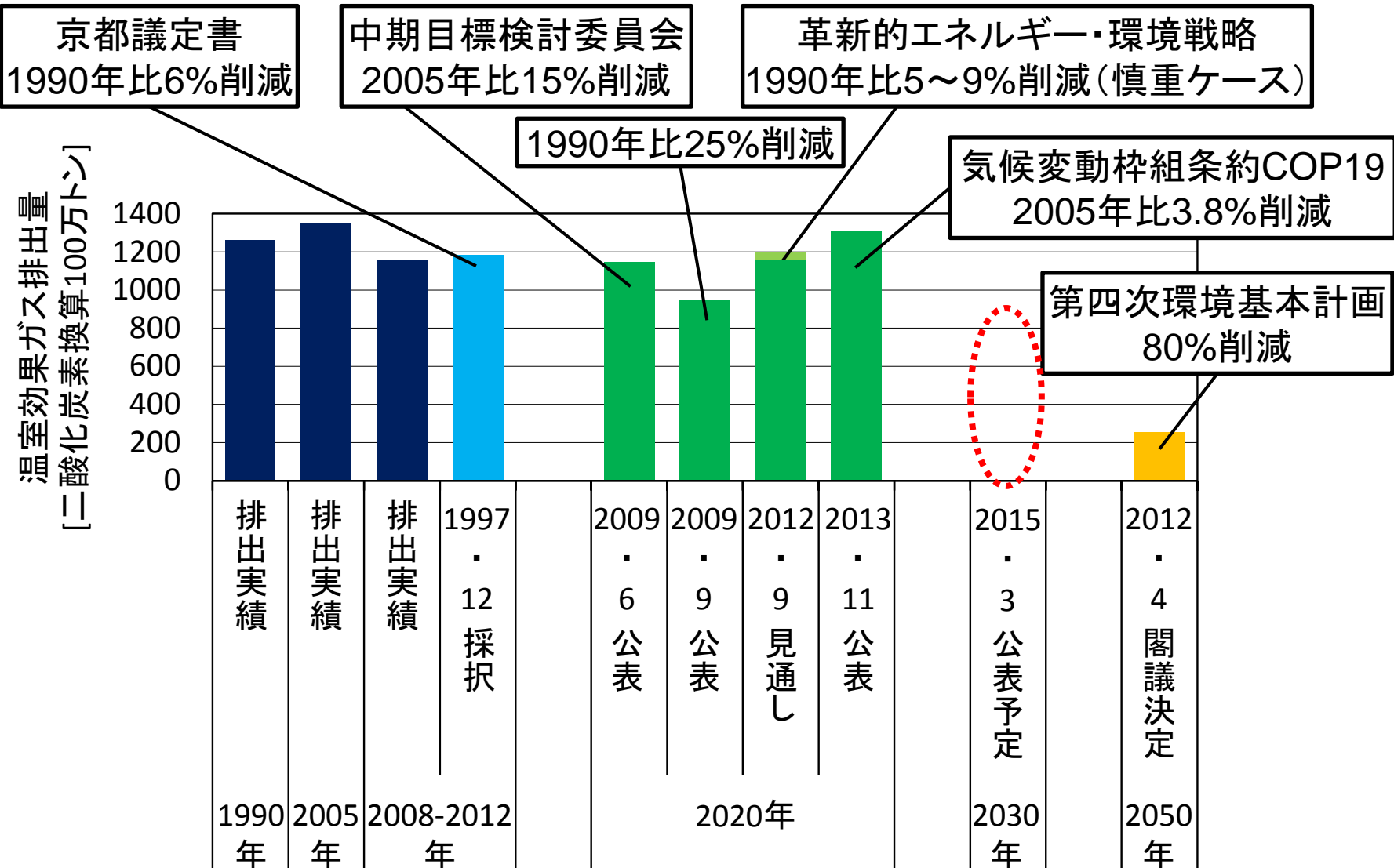
これまでの議論の経緯(1)

年	日本の動き	世界の動き
1992.5		気候変動に関する国際連合枠組条約(気候変動枠組条約)を採択。
1997.12	COP3(京都)。「京都議定書」を採択。 ■日本は、第一約束期間(2008-12年)に基準年(1990年)比6%削減。	
2007.5.24	安倍首相(当時)による「美しい星へのいざない」演説。 ●世界全体の排出量を現状から2050年までに半減。	
2007.6.8		G8ハイリゲンダムサミット:2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を少なくとも半減することなどを真剣に検討。
2008.11-2009.4	中期目標検討委員会(福井俊彦座長)で2020年の排出目標を議論。	
2009.6.11	麻生首相(当時)が2020年の排出削減目標を表明。 ■2020年国内排出量を2005年比15%削減。	
2009.9	国連気候変動首脳会合で鳩山首相(当時)が、全ての主要国による公平かつ実効性のある国際枠組の構築及び意欲的な目標の合意を前提とした2020年の排出目標を表明。 ■2020年の排出量を1990年比25%削減。	
2009.10-12	地球温暖化問題に関する閣僚委員会タスクフォース会合(植田和弘座長)。	
2009.12-2010.3	地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ検討会(環境省、西岡秀三座長)。前提や対策等も見直し、25%削減を実現した社会の姿を示す。	
2010.1	「コペンハーゲン合意」に基づいて、各国が排出削減目標、削減行動を提出。 ■日本は「全ての主要国による公平かつ実効性のある国際枠組の構築及び意欲的な目標の合意を前提に2020年の排出量を1990年比25%削減」。	

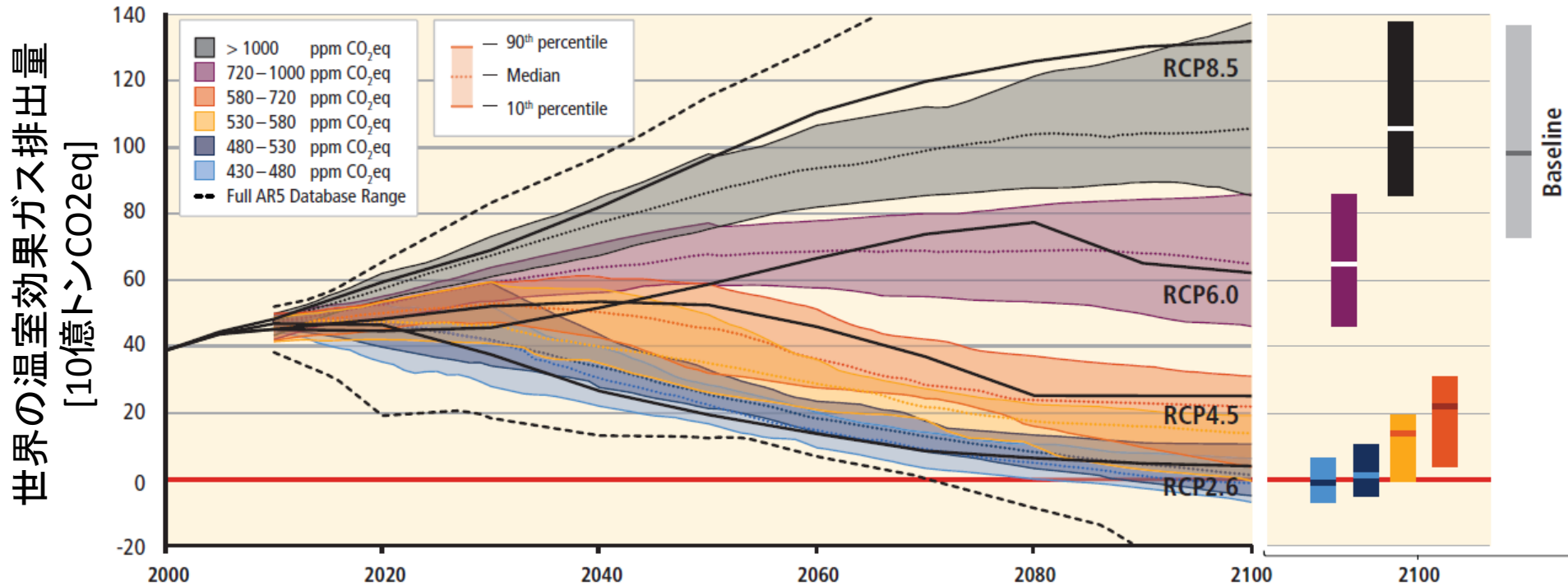
これまでの議論の経緯(2)

年	日本の動き	世界の動き
2010.4- 2011.3	中央環境審議会地球環境部会のもと、中長期ロードマップ小委員会(西岡秀三委員長)で、25%削減を実現した社会の姿を示す。	
2010.11- 12		カンクン合意(COP16):工業化以前に比べ気温上昇を2°C以内に収める観点からの大幅な削減の必要性を認識。
2011.3.11	東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故。	
2011.7-	中央環境審議会 2013年以降の対策・施策に関する検討小委員会(西岡秀三委員長)。	
2012.4.27	第4次環境基本計画が閣議決定。 ■2050年の排出量を80%削減。	
2012.9	革新的エネルギー・環境戦略のとりまとめ(エネルギー・環境会議)。 ■2020年の温室効果ガス排出量は、慎重ケースで1990年比5~9%削減。成長ケースの場合には2~5%削減。 ■2030年の温室効果ガス排出量は、1990年比概ね2割削減。 ■2050年までに温室効果ガス排出量を80%削減。	
2013.11	石原環境大臣(当時)が、COP19にて新たな排出削減目標を公表。 ■2020年の排出量を、2005年比3.8%削減。	
2015.3	各国はそれぞれの2020年以降の排出目標を提示。	
2015.12	COP21(パリ)。2020年以降の目標が決定?	

日本における削減目標の推移



世界の温室効果ガス排出量の将来予測



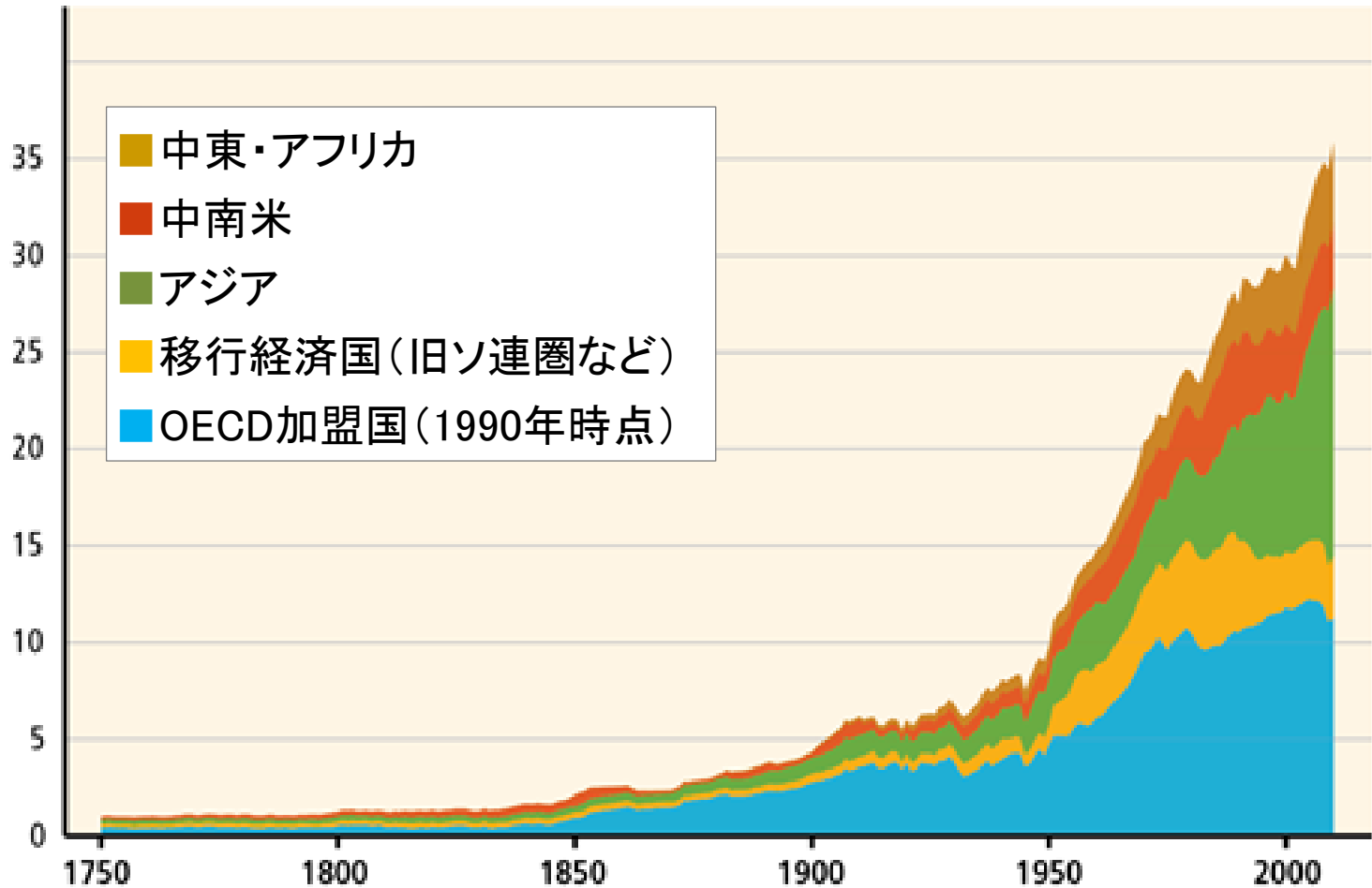
出典：IPCC AR5 WGIII 図 SPM.4

世界の平均気温を産業革命前と比較して2°C以下に抑える可能性が高いシナリオは、430-480ppmCO₂eq (CO₂等量)に相当する。

このシナリオの実現には、2050年の温室効果ガス排出量は2010年比41-72%減、2100年に同71-118%の削減が必要となる (IPCC AR5 WG3 表SPM.1)。

二酸化炭素排出量のこれまでの推移

化石燃料の採掘、化石燃料の燃焼、セメント生産、森林と他の土地利用からの二酸化炭素排出量(10億トン/年)



出典: IPCC AR5 WG3 Figure TS.2

これまでの経緯やIPCC第五次評価報告書の成果、本セミナーでの報告を踏まえて、2020年以降の温室効果ガス排出目標に関する議論を高めていきたい。

低炭素社会は 実現できるか？

DDPP (Deeply Decarbonization Pathways Project) 報告セミナー
及び環境省環境研究総合推進費2-1402報告会

《同時通訳レシーバー》

日本語 1チャンネル

英語 2チャンネル

お帰りの際は、レシーバーは座席に置いてご退出下さい